

# ニューコース学習システム 活用事例

## 菊川市教育委員会 前教育長 石原潔様



菊川市では「教科学習のみに留まらない児童・生徒にあわせた学び」をICTを活用して実現すべく、2021年度より学研の教材をご利用いただいています。

ニューコース学習システムとあわせて、LDや読みのつまづきに対する支援が可能な「多層指導モデルMIM デジタル版」や、調べ学習や協働学習で利用可能な百科事典をデジタル化した「ニューワイド教材ライブラリ」をご利用いただいています。

本日は、ソフトの選定に携わり、現在も放課後学習で児童・生徒の学習支援に従事されている石原潔前教育長に、ニューコース学習システムについてのお話を伺いました。

### 活用シーン

菊川市では児童・生徒の学習の理解度を確認するために、先生が週ごとにテストを自作していました。GIGAスクール構想に伴いiPadが全校へ配布されたことで、

「学習の理解度の進捗確認が、自動採点付きのICTのドリルでできるため、先生の負担軽減につながる」

「確認した進捗が芳しくない場合、ムービーやカードを活用してすぐに復習までサポートができる」

という2点を評価し、ニューコース学習システムの導入を決めました。今後はタブレットを持ち帰り、家庭学習でも利用できるよう、検討をしています。

### 評価ポイント

復習という観点で見ると、個人ごとの進捗具合が先生画面はもちろん、児童・生徒の画面からも確認できるところがいいですね。

○か×かがすぐに表示されるので、取り組んでいる児童・生徒も、「全部○になったら次をやる！」という判断を子どもたちが自分でしやすそうだと感じています。

私自身、現在も放課後学習を見ていますが、子どもたちが楽しそうに取り組んでいる姿が印象的です。



- ▶児童・生徒画面からも進捗状況を確認が可能。実施済みのコンテンツのアイコンは黄色になります。

インタビュー実施日：2021年6月21日

取材協力：株式会社高文

静岡日電ビジネス株式会社